

### 時には楽しく、時には真剣に 第39回安城シティマラソンの参加者募集

家族や友人を誘って一緒に参加しましょう。

なお、選手の誘導や車両などの交通整理をするボランティアも募集しています。

●とき 12月10日(日) 受け付け  
↓午前7時45分～8時30分  
開会式↓午前8時45分 競技  
開始↓午前9時30分(部門別  
に順次スタート予定) 閉会

式↓正午ごろ

●発着場所 市総合運動公園  
陸上競技場

※3・5・10部は市街地を走るコースです。

●部門・参加資格 左表のとおり

●表彰 1～9部門の1～3位に賞状・賞品、4～8位に賞状。参加者全員に参加賞。

完走者全員に完走証。そのほかに飛び賞もあります。なお、今年から仮装審査は行いません。

●その他 参加賞に同封された豚汁引き換え券、マイカップ・はしを持参してきた人には、豚汁を提供します。

●申し込み 10月5日(木)～11月5日(日)(当日消印有効)に郵

便振替または市体育館へ(月曜日を除く、午前9時～午後5時)  
※申込用紙は市体育館、地区公民館などにあります。

問い合わせ▼体育課(市体育館内) ☎76-3535

### 本人確認にご協力を

市では11月1日から住民票印鑑登録証明書、外国人登録原票記載事項証明書、戸籍謄抄本など市民課、支所・出張所で交付する各種証明書類の申請時に窓口で本人確認を行います。

これは他人が本人になりすまして不正に証明書類を取得することを防止し、個人情報保護するためです。  
みなさまのご協力をお願いします。

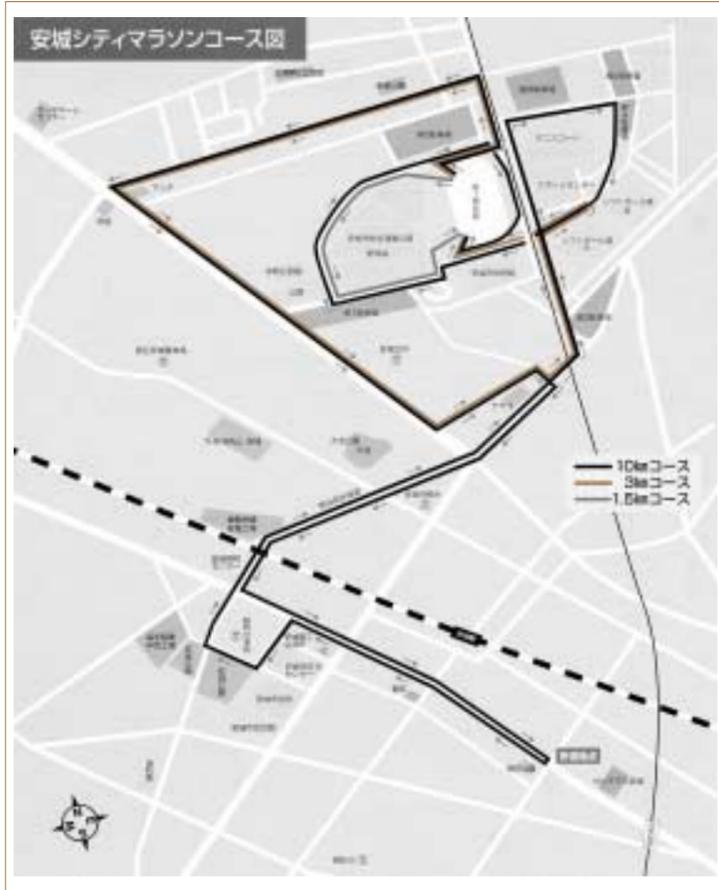
### 本人確認の方法

窓口申請に来た人に、運転免許証、パスポート、住民基本台帳カード、外国人登録証明書など官公庁発行の顔写真付き身分証明書または健康保険証、年金手帳、各種医療証など(いずれも有効期限内のもので原本)を提示してもらいます。

※第三者または別世帯の人による交付申請については従来通り委任状も必要です。

### 問い合わせ▼市民課

問い合わせ▼市民課



部	種別	距離	参加資格	参加費
1部	小学男子(5、6学年別)	1.5km	市内在学	500円
2部	小学女子(5、6学年別)	1.5km		
3部	中学男子(1、2・3年別)	3km	市内在住または西三河在学	
4部	中学女子(1、2・3年別)	1.5km		
5部	一般男子(高校生以上40歳未満)	10km	どなたでも	1500円
6部	一般男子(40歳以上50歳未満)	10km		
7部	一般男子(50歳以上)	10km		
8部	一般女子(高校生以上)	10km		
9部	一般女子(高校生以上)	3km		
10部	ジョギング(小学生以上男女)	3km		

※ジョギングの部には仮装で参加できます。

### 小川町・姫小川町地内 夜間通行止めのお知らせ

名鉄西尾線の鉄道高架工事に伴う仮線軌道工事(踏切工事)のため、下記の道路が夜間車両通行止めになります。工事中は、迂回路の案内にしたがって通行してください。

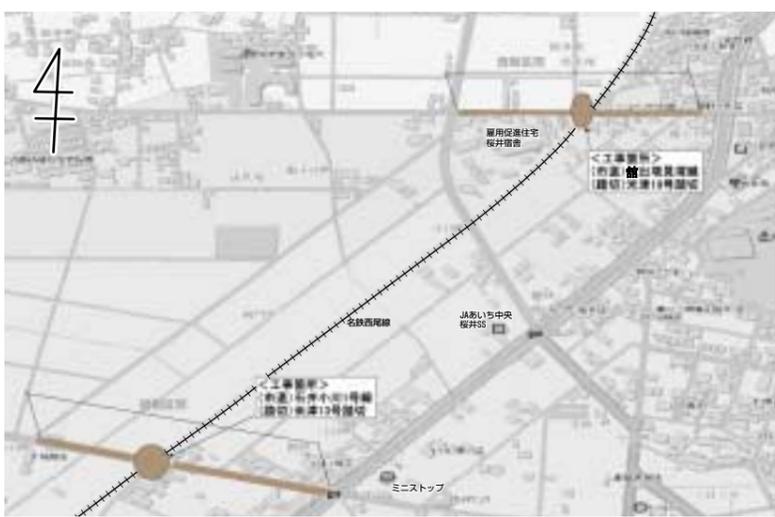
■工事場所(左地図参照)  
市道石井小川1号線(米津13号踏切)小川町御林地内

市道館出塔見塚線(米津19号踏切)姫小川町館出地内

### 規制期間

左表の日程の午後11時～翌朝6時(歩行者は通行可能です)

### 問い合わせ▼ 区画整理2課



区画整理	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	11/30	
米津13号踏切道	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
米津19号踏切道	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●



## Hot Voice

### ⑨山は哲



黒部川源流域の高山植物

表題は、私の敬愛する著名な登山家のことば。哲学を専攻したことのない私に難しい話はよく分からないが、山に登るときの自分を振り返ると、共鳴する何かを感じてしまう。

本格的に山に登り始めて約十一年。山に登り始めたきっかけは、あの阪神大震災の被災地での生活支援ボランティア。参加者に求められたのは携帯用ガスコンロと寝袋の持参。食と住は自前覚悟のボランティアだ

帰宅した私の手元に残ったのは、まだ真新しいコンロと寝袋。これらの今後の活用を考えた結果、結論は山登りに至った。

あれから日本アルプスの主要な峰々を踏破した。楽しい思い出が多くある反面、恐ろしい経験も数多くある。遭難遺体の発見、落石、落雷、断崖での転倒、道迷いなど。あと一歩間違っていたら、私自身がこの世の中に存在し得ない事故も体験

した。それだけに山行中は、己の命や存在というものを、嫌でも考えざるを得ない心境にさせられる。無事に下山し家路に着く時、「なぜ生きるのか」でなく、「なぜ生かしていったらいいのか」を自問自答する自分がある。

満足な解答はまだ見いだしていないが、「生かしていったらいいのか」と、もう思うことにはしている。

この夏休みは、北アルプス黒部川源流域の山々を縦走した。八月中旬とはいえ三千近い雲上界には、秋の気配が漂っていた。短い夏、高山植物は儂い生命を燃焼させ、雷鳥の親は身を挺してヒナを守る。

親が子を殺し、子が親に殺意を向けた人間界の夏。生き抜くことに精一杯、そんな雲上界の風景に考えさせられることは多い。

やっぱり、山は哲なのだ。

安城市長

神谷 学